

1. 研究目的

公衆衛生と呼ばれるものには様々な分野があるが、その中でも母子保健と学校保健に的を絞り、更に身近な「手洗い」と「歯磨き」を題材とした絵本を制作することにした。絵本を通じて子供にこれらの基本的な病気や虫歯予防対策が大切であると伝えると共に、その上で行動に移させること、また読み聞かせを通じて大人と子供のコミュニケーションツールになることを目的とする。

2. 調査と分析

子供により伝わり易い媒体はなにかを調査し、絵本を選択した。絵本は子どもたちに知識を与え、想像力の働きを支えることにより、ものごとを絵にする力を養う。絵によって実生活での経験を確かめ、整理し、それを頭の中で再現することができる。

更に絵本の内容を決める為に年齢別の精神と身体の発達の違いを調査した。そして対象とする児童の年齢を2歳から4歳の幼稚園児と5歳から6歳の小学生に分けた。

幼稚園に通い始めると生活の場は家庭だけではなく、人との接触も増え保護者や教員がいくら目を配っていてもどこで何をしたかを正確に把握するのは難しくなる。そして小学校へ入学をすれば活動範囲は更に広がり、だいたいのは1人でしなければいけないので、この年齢のうちに自分自身で予防対策の意識を向上させる必要があると分析した。

3. コンセプトの立案

「子供たちに理解させ、行動させる。」

4. デザイン展開

幼稚園児向けの絵本の内容は、この年齢の児童は簡単なストーリーが理解できるので文字数は少なめにした。また、児童が飽きずに何度も繰り返し読みたいと思えるように、リズムを持った文章にした。発達を始めた想像力（空想力）を刺激できるようなイラストを描いた。

小学生になると、挿絵が少ない本でも物語を理解して読むことができるようになるので、内容は複雑になり、イラストではなく文章がメインにな

るようにした。一人で手洗いや歯磨きを行う場合に手本になるように、手洗いをしている手を横から見たイラストや、歯磨きの際の正しい歯ブラシの使い方のイラストと手順を載せることが必要と考えた。文章もイラストも現実感のあるものにした。

5. 完成図



図1 幼稚園対象絵本の表紙



図2 小学生対象絵本の内容

6. 結論

幼稚園と小学校に通う児童にそれぞれ絵本を読んでもらい、実際に手洗いや歯磨きを行ってもらった。歯磨きのイラストで伝わりにくい箇所もあったが、保護者と一緒に行うことで理解してもらうことができた。手洗いのイラストは小学生の児童ひとりでも見て真似することができたので、この絵本の目的は達成することができたと感じた。

7. 参考文献

- ・絵本ナビ
<http://www.ehonnavi.net/>
- ・幼児の歯磨き・手洗いのしつけ/子育て応援事典
<http://www.yu2372.net/shituke-5.html#edit/data/data1.php>